

介護を応援する情報誌 [カイゴタイムズ・トーキョー]

介護 TOKYO Times

10

Oct.2020

TAKE
FREE

介護のこと新発見。
地域密着、
この街と共に。

CONTENTS

- 02 **人生を彩る場所** (株)新風書房代表 福山琢磨さん
私の「自分史人生」
- 04 **出逢い『リブインさくら』**(介護付有料老人ホーム)
施設長 佐久間友弘さん
～あなたに“あい”たい～ 半田あいの出逢い輪
- 05 **思い『株式会社 Lillie』**(代表取締役) 畑中優希さん
**医療的ケアに注力。
with コロナ時代のサービスを見据えて**
- 06 **見る『訪問看護ステーションはな』**
**働くスタッフの個性を大事に、
人間力を伸ばす教育**
- 08 **対談**
『株式会社 福祉医療酸器』(係長) 須田健太さん
『訪問介護事業所 月の光』(管理者) 田中智恵子さん
**「連携」事業所間の情報共有の重要性と
今後の展望について**
- 10 **笑**
レクリエーション介護士 よしもと芸人さんインタビュー
**「お笑い×介護レク」で
介護現場を盛り上げます!**
- 12 **CINEMA**
映画「ぬくもりの内側」
一あなたの最後は誰に託しますかー
次号予告・メンバー紹介



「地域」と「人」にフォーカスした
介護の「今」を伝えるタウン情報誌



人生を彩る場所

日々輝いている魅力をクローズアップインタビュー

私の「自分史人生」

(株)新風書房代表

福山琢磨さん (86歳)

3月6日朝の突然の異変
パソコン作業中、脳梗塞に襲われる

3月6日、自宅で朝日新聞を開くと、毎年8月に弊社が発行する戦争手記『孫たちへの証言』原稿募集の記事が、暮らし面トップに3段で掲載されていた。写真入りで問い合わせ電話も記載されており丁寧な紹介記事である。「きょうは忙しくなるぞ」と気を引き締め、出社した。



戦争手記『孫たちへの証言』
原稿募集記事

まずパソコンに向かい、着信メールの中から必要なものだけ残し、迷惑メールは消去するが、これに結構時間がとられる。1時間ほど入力作業をしていると左指に異変を感じた。痺れているようなので右手でもみほぐし作業を続けようとしたが、すでに麻痺しているらしく感覚がない。「これはおかしい」と主治医に電話したのである。主治医は私の声を聞きなり、大声で

「福山さん、呂律が回っていない。脳梗塞かもしれない。動かないで私の指示に従ってください」と、大阪警察病院への救急入院を告げられた。救急車は3分ほどで到着した。同病院の診察券を持っていたので隊員に渡すと、すぐ手続し、サイレンを鳴らして走り出してくれた。到着は3分後の10時9分であった。

脳梗塞で左半身麻痺という大病にもかかわらず、痛くもかゆくもなかったのが不思議である。しかしその後体験した神経の不思議な機能や失敗は書きたかった。さらに体力低下や痺れとの苦しい闘いが待ち受けていたことも。だが紙幅がなく次へ移る。

50歳まで新聞一途の印刷人生 高校新聞の編集指導から社内報へ転換

私の趣味は新聞編集と印刷である。中学3年で学校新聞をガリ版で作った。本格的な活字に憧れ上阪、1年、印刷所で働いた後、夕刊新聞社へ移った。文選係であったが1年後、大組係に急な欠員が生じなぜか私が異動となった。活字の最終組版を行う重要な部門である。第1面を整理部立会いのもと、約20分で組み上げなければならぬ。大組台の周りは校正や広告係などが取り囲む。その中に工務局長がおられ「あと何分」と叫ばれる。職場はまさに戦場のようであった。私がまだ17歳の体験である。この職場でそれまでの、のろま人間の性格も一変した。工務局長の勧めで昭和27年4月から夜学



『扇二商高新聞』
大阪府高校新聞コンクール 優勝

各社持ち回りだった「大阪府高校新聞コンテスト」(のち「近畿」に拡大)は朝日新聞が継続主催することになり、毎月の例会や編集講座など同社で行う。担当は社会部遊軍記者の平野一郎氏で、いろいろ活躍の場も与えてくださった。

このような状況下の昭和59年5月7日、私は満50歳の誕生日を迎えた。かねてから胸に秘めていたことがあった。出版の仕事である。中でも新分野の「自分史」にチャレンジしようとしていた。社員は30人を超えており、番頭格の石川隆工場長(扇二商後輩、後専務)と清水義明部長(天二商卒、後常務)がいた。社屋も現在地の鉄筋5階建てに移っていた。

新分野への挑戦に「自分史宣言」 質問で誰でも書ける「記入式ノート」考案

この日私は、石川工場長と清水部長を社長室に呼び、「今日で満50歳となった。これからの会社の柱づくりとして、自分史分野の開拓に取り組み。今の仕事は君たち二人に任せると宣言したのである。

5階の1室に「出版事業部」の看板を掲げ、「新聞印刷が出版事業部開設の、べた記事が新聞に出ると次々問い合わせが入り、好反響である。80歳の男性から取材依頼があり女性記者に行ってもらったが、数回後「取材記者さんが若く、話がかみ合わない」と言われ、私が10数回訪問し、仕上げた。取材して書き上げるのは顧客の好みなどあり、「一筋縄では難しい。そこで手引書的なものを作ることにした。暗中模索の結果出来上がったのが「記入式自分史ノート」(B5判280頁バインダー形式2750円)初版タイトルは「自分史マニュアルメモリーノート」である。



『自分史マニュアルメモリーノート』
『自分史講座』

人生を出生から老年まで18の項目に分け、それぞれに書くべき事柄に対する質問を設けたのである。この記入式ノートは、それまでのインターネット項目を駆使し約2か月で仕上げ、同年7月28日に初版を発行した。これを手引書にした「自分史講座」を開催したのを機にマスコミ発表をした。朝日新聞社が8月31日「自分史に手引き・設問400で跡づけ」の見出しを付け写真も入れ7段で紹介し、読売は9月2日であった。電話番号も記載されていたので、記入式ノートは飛ぶように売れた。「質問に答えていけばよいので誰でも書ける」と大好評であった。

普及に5年かけ全国を講演行脚 64の代理店作る「物から心の時代」へ

私は翌60年から「記入式自分史ノート」の普及を兼ね、高齢者の皆さんへ、「人生の大半を戦争と復興に尽くした体験を書き残してください。」このノートに書き込んでくだされば、皆さんが激動の時代を生きた証を子々孫々へ残せませす」と訴えることを決意し、全国を5年かけ講演行脚することにした。様々な問い合わせを受け、従来の自叙伝や回顧録のような成功者の書くものではなく、戦中、戦後を共有した庶民を描くのが「自分史」と考えたからであり、今こそニーズを掘り起こさなければと感じたからである。

5年間でほぼ全国を回り、64箇所の事業所に販売代理店を引き受けていただくとともに「自分史友の会」などを根付かせていった。この間、大阪・東京を中心に文化センター10か所に「自分史講座」を開設してもらい、自ら講師を務めた。

認知症対応の自分史へ取り組む 予防に「回想法」導入、サロン形式で

超高齢者社会の新たなニーズを取り入れて、自分史事業に新風を巻き起こしたのが私の後を引き継いでくれた三男の福山耕治(51)である。

「認知症事業部」を2018年に立ち上げた。鳥取大学の浦上克哉教授が開発した認知症患者のエビデンスがあるアロマイル(リブレイン)を印刷インキに混ぜ込んだ「アロマテックインキ」を開発した。さらにこのインキで印刷した記入ノートを製品化した。このノートに手が軽く触れると臭いのカプセルが弾けてリブレインの香りが嗅覚を伝って脳の記憶をつかさどる海馬を刺激する。

介護施設のレクリエーションとして自分史レクを開催することで、利用者の生活歴が一目でわかる。病院や施設で、認知症患者がどのような暮らしをしていたのかを知ることは、とても重要なことであるため、活用を勧めている。次のステップとして、本年1月から大阪府立中之島図書館で「認知症予防型・自分史サロン」を5回にわたって開催した。講師を務めた福山社長は、軽度認知障害の高齢者が増え続けている現状をグラフで示した後、予防に有効な回想法について具体的な手法を受講者に教えながら、一人ずつの自分史づくりを指導。全員のミニ自分史を完成させた。

同サロンは7月から大阪府堺市の「泉健老大学」でも、毎月実施中である。さて、これからの自分史はどのような方向へ進むのだろうか。ドラマ風の私小説は目にしたが、記憶を年次順に記録する基本的な書き方は変わらないであろう。また一冊にまとめる紙媒



『認知症予防型・自分史サロン』
講師 三男の福山耕治社長

体で自費出版する人も続くだろうが、電子化によるドラマ仕立ての「わが家の歴史ヒストリア」的なものは散見されるごく一部で、散見されるが必ず安価な手法が開発され普及するだろう。

問題は認知症予防型の自分史である。予防や治療医学は進化を続け、健康寿命も延びていく。回想法の記憶再生手法も、NHKが制作した「回想法ライブ러리」から考えると、画面を見ながら記憶を再生する手法は近いように思う。ZOOMを使い、親しい友や家族と語り合うのはすでに一般化している。親族が年1回、ズームで語り合う「親族会議」なども面白い。しかし、いかに超高齢化社会が進み、デジタル社会になろうとも我々がロボットにならない限り、生身の体で親しい仲間と語り合うサロンの場は、永遠に消えない。

あなたに“あい”たい

半田あいの出逢い輪

Vol.3

活躍されている方からのご紹介でひろげる、出逢いの輪

つながり

自分が身を置く場所を変えるのではなく、共に環境を変える！

「法人一筋の愛情から敢えてお話し下さいました。専門学校時代の実習先を職場に選びますが、「笑顔溢れ、職員もキラキラしていた」というイメージから、いざ働いてみると雰囲気が一変していたといえます。

「当たり前にあつた挨拶もなく、生活音すら聞かえない様な空間に」理由は職員の入れ替わり。人によって変わってしまうという体験。しかし、職員同士の対話の機会もありませんでした。

「デイサービスの統括主任となると、良かった場面を伝えたり、日々の心とむエピソード等を集める【にやりほっと】活動も始まり、皆で共有できる形の構築へ。」

他業種の経験を活かす

「アパレル出身の佐久間さん。自分には何ができるのか。“自分は何のスペシャリストになるのか”という事を求められてきたそうです。“お客様のニーズを把握する事は介護も通ずる所ですし、接遇の高さやサービスという視点を持ち合わせている職員も多いと感じます”様々な文化や価値が活かされる場でもあります。」

介護+カメラ

「佐久間施設長が更新するリブインさくらのブログは、豊富な写真が目を引きます。“日常を写真に残す”という事で、毎月7000〜15000枚の写真が撮られており、施設長も一眼レフを構えます！コロナ禍に於いては、ご入居者とご家族の心理的距離を近づける意味でも、更新頻

●インタビューアー/半田あい



・フリーアナウンサー
・介護福祉士
自らが培ってきた目線から「介護を伝える！」

☆「劣等感」「コンプレックス」「不安」お話しの中で出てきた言葉です。イメージとのギャップあり、想像も難しく、その都度聞き返してしまいましたが、常に自身に素直に向き合ってこられたという印象です。どんな自分からも目を逸らさず、受け入れ、前向きなベクトルに変えていきたい。立ち居振る舞いや口調は実に穏やかなものの、内に秘める熱いものをお持ちの奮励努力の方だと感じました！今後は人材育成や教育の分野の学び、若い職員の離職や疲弊している介護従事者に対するリカバリーの活動といった、業界の課題へも目を向けていきたいと力強く語って下さいました。踏ん張る中で自己研鑽を続け、そして周りに希望を与えてくれる。「一緒に働いてみたい！」と思わせてくれる施設長でした。



出逢い
第3輪

今回ご紹介いただいたのは、佐久間友弘さんです。

他業種から介護業界へ。16年前、同法人の特別養護老人ホームに入職。デイサービスを経て昨年、現施設へ。今年4月に施設長に就任された。39歳。介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、東京都認知症介護指導者、ワークショップデザイナー。モットーは、“一日一笑い”。「1度も笑わないで1日を過ごしているご入居者がいる」という違和感から、認知症のご入居者の感情に訴えかける関わり方を探求する。自身の関わりを通して、どなたにも楽しいという感情を持っていただきたい。多種多様なコミュニティへの参加や地域の他事業所との交流等も積極的に行っていたらっしゃる、そんなバイタリティ溢れる佐久間友弘さんに、今回お話を伺いました。



『リブインさくら』(介護付有料老人ホーム)足立区古千谷本町
施設長 佐久間友弘さん

思い

医療的ケアに注力。

Withコロナ時代のサービスを見据えて



『株式会社 L i l i e』

代表取締役 畑中 優希 さん

東京都北区にある株式会社 L i l i e の代表取締役畑中優希さん。2020年1月から運営する居宅介護事業所「ゆりの花」で管理者としても活躍している。起業前から北区で10年以上介護の仕事に従事。コロナ禍の今と今後について話を伺った。



畑中優希さん

畑中さんの出身は熊本県。「先に上京していた姉を訪ねた」ことが上京のきっかけとなった。介護の世界に入ったきっかけも「姉から熊本に帰る前に資格の取得を勧められたから」。

以来、北区で10年以上介護のキャリアを重ねてきた。前職でもケアマネージャーとして活躍をし、自身の理想の介護を追及していききたいという思いから2020年1月に居宅介護支援事業所「ゆりの花」を立ち上げに至る。

畑中さん含め2名のケアマネージャーとヘルパー4名でスタート。立ち上げ後すぐに新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化するが、立ち上げ時に畑中さんの思いに賛同してくれたスタッフと順調に業績を伸ばし、現在はケアマネージャー3名、ヘルパー7名という体制にまでになった。

好調の理由としては、「予防から要介護までの幅広いケースを受け入れている」ことに加え、「病院からの利用者様の紹介を受けることが多く、病院からの紹介の方は介護度の高い方が多く、訪問の方では重度訪問介護もやっている」ため。

さらに、「重度の障がいを抱えている65歳以上の要介護4の方で介護保険と障害福祉サービスを併用という稀なケースの利用者様もおり、ケアを必要としている方を積極的に受け入れている。」と話す。こうした医療的なケアを必要とする方を受け入れられる背景としては、看護師資格を有しているヘルパーが在籍しているから。病院からの信頼も得ることに繋がっている。

研修も積極的に実施していて、「以前看護師として活躍をされていた方を招いて、感染予防・吸引方法などを3か月に一度くらいのペースで実施している」と話す。

新型コロナウイルスの影響については、「ご本人よりご家族がデイサービスなどへの通所を控えたい」といった傾向にあるのではと話す。例えば、「デイサービスでの入浴ではなく自宅での入浴をする」や「リハビリの通所から訪問リハビリに切り替える」などだ。理由は

あつまるということに対する「ご家族の心配」。

これらの「自粛」は感染リスク減少の反面、「外に出る機会の減少」にも繋がってしまうと畑中さん。「地域の寄り合いなどにも行く機会が減っているなど、ご本人との意思とは裏腹に家にいることを余儀なくされてしまうことで、意欲的になれる場面自体が減ってしまったように感じている」と話す。

だが、「こういった所にサービスの需要がある」とも。今後は「オンラインの活用、タブレットなどを活用した方法を考えたい。」さらに、「今後、在宅で看取る方は多くなっていくと考えている。現在の、看護師さんのつながりを活かせるという観点から訪問看護をやってみよう」と今後の展望も語ってくれた。



看 る

働くスタッフの個性を大事に、

人間力を伸ばす教育



軌道に乗るまでの紆余曲折

―設立時に苦勞したことはありませんか？

2015年に設立した「訪問看護ステーションはな」。現在は約170名のスタッフを抱え、地域に根付いた事業展開をしています。しかし、その道のりは順風満帆なものではなかったと言います。

今回、設立当初の出来事を皆さんに振り返っていただきました。

佐藤社長 大変でしたね。まず、専門職の方を採用できるのか不安でした。面接の申し込みはなく、来たとしても入職につながらない

ことが続きました。

一番つらかったのは、ようやくメンバーが揃い、オープンに向けて準備を進めていた時のことです。4人中3人の看護師が退職を希望したんです。

―原因は何でしょうか？

佐藤社長 主に、スタッフの意見全てに耳を傾けてしまい、私が右往左往してしまっていたことですね。そこで大きな気づきがありました。

私達は利用者さんや家族に寄り添いたいという気持ちが強くなります。だからこそスタッフの意識も同じでなければと思いました。

以降は、意思の共有や教育体制、組織作りに入りました。その軸は今も変わりません。専門職の人達は、それぞれの想いを大事にしています。少しでも実現できるような環境を作らなければ、定着することは難しいと思います。お金だけでは、何かを継続したり、モチベーションを上げたりすることにつながりませんよね。

社員の紹介や推薦で採用する

「リファラールリクルーティング」

―今、多くの職員が集まる理由とは？

佐藤社長 スタッフの9割がリファラール採用です。実は齋藤君がターニングポイント。私の友人のつながりで「信頼できる



看護師がいる」と紹介してくれたのが齋藤君でした。齋藤君は入職してから、数十人のスタッフを連れてきてくれました。彼のリクルート力や営業力は半端ないですね。

齋藤部長 「はな」に入職する以前は大学病院で管理職をしていました。友人のつながりで佐藤社長にお会いした時は、大学病院を退職する予定はなかったのですが、佐藤社長と話したら一緒に仕事したくなりました。ただ、すぐ大学病院を辞めるわけにはいかなかった。『はな』が大変な創業時期に来られなかったんですよ。

半年後、佐藤社長の熱い思いに共感して「はな」の来たのに、他のスタッフには社長の熱い思いが伝わっていませんでした。

その時、佐藤社長の思いに共感している自分が先頭に立つてみんなの気持ちを一つにするのが自分の役目だと思いスタッフと対話を重ねました。病院で働いていた時は、看護師として働いていれば良かった。自分が経営に



本誌「10月号」
表紙モデル

訪問看護師
小川真人さん

介護コンサルタント
若山克彦さん

ついで考える必要はありませんから。でも、「はな」はこのまま利用者さんがいなくなったら続かないですよ。

スタッフが一丸とならなければいけない時に社長の思いがスタッフにリンクしていませんでした。そのような中で、半年程苦しみましたね。

山岸副部長 当時はよくケンカしていましたね。

佐藤社長 今では仙人のようです(笑)。

— 山岸副部長の人職のきっかけについても教えて下さい。

山岸副部長 私も知り合いの紹介です。はじめはアルバイトでしたが、1年半後に常勤になりました。

— なぜ離職者が少ないのでしょうか？

佐藤社長 当社は事業も拡大していて、今ではたくさんスタッフが入ってきていると思うかも知れませんが、しかし入職する1年前くらいから、地道に思いの共有をしています。「君のしたい看護はどのようなものか」「どうなりたいか」「僕たちはこうなっていきたい」など、そこで合致すれば一緒に成長していこうと話しています。自分で考えて、当社の事実を知ってから入ってきてくれるので、ギャップが少ないです。



山岸副部長 それで離職率も低くなっているのかと思います。今年の離職率は4%となっていますね。

職種を越えた関係づくり

— 今の環境はいかがですか？

齋藤部長 やりたいことが叶っています。訪問看護を経験し、新たな世界が広がりました。また営業することは、看護師時代にはなかった学びです。

山岸副部長 とても楽しいです。管理業務や会議が多いのですが、仕組みづくりや好きな作業で感謝してもらえます。評価していたとき、やりがいを感じています。

佐藤社長 他にも調整力に優れた社員もあり、彼らが内部を固めてくれるので、本当に助けられています。

山岸副部長 苦手なことがあっても、良い部分を伸ばします。できない部分は周囲がサポートする事を大事にしています。

— 社内研修ではどんな取り組みを？

佐藤社長 看護や技術的な事は全てOJT(職場内訓練)などを行っています。目標達成のメソッド、理念教育、メンタルトレーニングなどにも力を入れています。ケアも大切ですが、一人の人間としてどのように成長していくかが大事だと思っています。

会社の理念はもちろん「自分がどうなりたいのか？何をしたいか？」というところまで掘り下げて目標を立てます。

みんな少し高めの設定をしますが、最近半年ほど前倒して達成できていますね。

相手からの信頼とクリエイティブさが生まれる秘訣

— スタッフが生き生きと働ける秘訣は何でしょうか？

佐藤社長 大事にしているのは余裕ある人員配置です。

忙しくなったから人を増やすのではなく、最初から受けられる配置を心がけています。訪問看護は一定のキャパシティを超えると依頼を断ることがあります。しかし、相手は不安を持ちながら相談にくるので、断ることがわかりさせてしまいます。

「いつでも大丈夫ですよ」という体制であれば仕事量は減りません。初めから受けられる人員配置しておくことが大切です。

山岸副部長 そうでなければ「仕事が楽しい」なんて言葉は出てきません。このような環境は、純粹にすごいと思います。



佐藤社長



齋藤部長



山岸副部長



ライター 塩野涼子

対談

つながることによって実感。
情報の交換の重要性。

『株式会社福祉医療酸器』

係長 須田健太さん

『訪問介護事業所の光』

管理者 田中智恵子さん



藤井 本日は宜しくお願いいたします。
早速ですがお二人の介護業界に入ったきっかけを教えてください。

田中 子どものころから「人のお世話をするのが好き」「人からありがとうと言われるのが嬉しい」と感じていたからです。

高校卒業後の進路を考えたときに、「介護」という仕事を福祉という、一回り大きい枠で捉え、障害福祉や児童福祉の分野も学びたいという思いから、付属の短大の幼児教育学科へ進んだのですが、学生生活を通して介護の道にすすんでいきたいと改めて決意しました。現在は、訪問介護事業所で管理者をしています。

須田 学生の頃、同居していた祖父がケアを必要としている姿を見て福祉の世界で働こうと思っていました。

大学では工学部で全方向型トレッドミル(ルームランナー)などを研究していました。



須田健太さん



田中智恵子さん

藤井 須田さんは、学生時代から福祉を志していたとのことですが、実際に介護業界に入ってみてどう感じていますか？

須田 楽しいですね。それは、私が人と関わり寄り添う仕事が好きだからだと思います。学生時代に学んでいたことは、電動車いすや電動ベッド等の福祉用具を取り扱うという意味で今に繋がっているように感じていますね。

藤井 現在のお二人の連携の形のきっかけはどのようなものだったのでしょうか？

須田 福祉用具専門員として働く前は、福祉車両の営業をしていたんです。その時に車両の点検で出入りをしていた事業所に当時田中さんが勤めていて、それからです。

田中 連絡などのやりとりをしていて、業者さんの中でも印象に残っていました。理由は、相手目線で物事を考えてくれるところですね。

現在も、一緒に担当している利用者さんの福祉用具に不具合があった場合の対応がスピーディーであったり、業務上の相談を持ち掛けると快く話を聞いてくれるのですごく信頼しています。

藤井 介護の現場の一つの側面として、直接的に利益をもたらしてくれない業者や営業の方に対して、対応が雑になってしまうような場面を見聞きしますが実際どうですか？
対人援助技術のプロという側面から見れば意識を変えていける部分もあると思うのですが。

須田 あるかもしれないですね。
反面、地域を良くしていきたいという営業ではない部分で介護事業者や同業者の方と話をすると、知り合いが増え他社さんの良さなども知ることができて情報が増えていく。結果、地域のつながりが出来ているとも感じます。
「良くしたい」という思いは同じだと思います。

藤井 コロナの前はそのような機会は多かったですか？

須田 そうですね。介護業界だけではなく、鍼灸の先生と話をする機会もありました。ケアマネさんとの付き合いの中では、色々な話を聞きたいという姿勢でいることで学びの機会が多くありました。例として、巻き爪などに特化した爪切りを事業としていいる会社があることを知ることができました。

田中 爪切りは、ご家族やデイサービスの看護師さんが切ってくれることが一般的ですが、巻き爪や爪が厚くなっている方については、医療機関をすすめられることもあります。お一人で通院することが困難な方もいるので、専門的にケアしてくれるところがあることも良いと思いますね。

藤井 最近「足の分野の専門家が増えています。巻き爪といったケアの部分もそうですし、ネイルといった美容の分野でも目立ってきていますね。

須田 そうですね。加えて、リハビリやリンパマッサージといった部分でも専門家が増えてきています。これらのことも、自主的に勉強会などの場に出ていかなければ知ることのできなかったもので、色々な人との出会いは大切だと思います。



藤井 お二人とも、お仕事を通しての「人」のつながりを大切だと感じられているんですね。

田中 北区は介護事業所の連絡会など繋がりを築くことができ、本場にありがたいと感じています。この辺は地域性を感じる部分でもあるので、どの地域も全体的に良くなっていくれば目の前の利用者さんの為になると感じます。

藤井 行政が独自の対応を打ち出している所もありますが、「コロナ禍で日々の業務で変化を感じるころはありますか？」

田中 気持ちがいささか沈んでしまったり、見通しの立たなさに不安を感じてしまう方もいらっしゃると思います。在宅ワークになったご家族の方とも連携を取りながらケアできるような心掛けています。加えて、直接ご自宅へ向うのでマスク着用や手洗いがいまいの徹底など感染防止には気を付けています。

藤井 訪問介護のように利用者さんと直接会った時の情報をケアマネージャーを含め、関係者が共有できることが重要になってくるように感じますね。

田中 そうですね。ちよつとした情報でも共有すると、コロナ禍で訪問が難しいケアマネージャーさんからは喜ばれることがあります。

須田 今後はチャット機能のあるSNSなどを取り入れることで、個人情報に配慮し文字だけではなく写真をすぐに送れるなど、

よりスピーディーに情報が共有できると思っています。加えて、コロナ禍でオンラインでの会議なども定着しつつあるので、担当者会議などでもこういったものを活用していても良いのではないかと思います。

藤井 最後に今後の展望を教えてください。

須田 福祉用具の業界にぜひ入ってきてもらいたい。若い人たちには丁寧に教えていきたいと思っています。

藤井 工学部の学生の方たちにも、開発という部分で直接的に繋がれる部分もありますね。

— 介護経営サポートシステム —

SuisuiRemon

実際に現場で働くスタッフの意見を取り入れながら、常に「使いやすい」を追求して改良し続けています。

各種介護保険サービス、障害者総合支援、自費サービスに対応!

全国5,500事業所様で利用中!

全国でのユーザーも急増

介護のセントケアグループ運営の抜群の安心感

SuisuiRemon導入 6つのメリット

売上・入力・債権の明細を一元管理	返戻でお困りの方は効率的な入金管理で回収率アップ	複数事務所の一括管理
簡単便利なスケジュール作成&多彩な入居一時金・前受金管理	介護企業としてのノウハウを活かした介護関連帳票	簡単・便利な保険外サービスの登録・管理

経営・運用資金改善、業務効率化、経費削減にも貢献します!

● 早期資金化 ● 他社記録連携 ● 業務効率化の口座振替サービス

安心のサポート 電話 FAX・E-mail リモートサポート

バージョンアップも自動更新

アセスメント特化型システム

1. 看護のアイちゃん
訪問看護アセスメント・業務支援システム

メリット1 アセスメントの標準化を支援!放送大学大学院 山内豊明教授監修[新アセスメント手法]完全搭載

メリット2 看護の質を保障!

メリット3 帳票連動により業務負担を軽減!

メリット4 お客様によるバージョンアップは不要!

全国約540ヶ所の在宅介護を運営するセントケア・グループの運営書式集ツール

コンフォーム・パッケージ

1. リスクヘッジ
コンプライアンスの整備から制度改正に迅速に対応することができます。
2. 管理コストの抑制・削減
制度対応や研修プログラムの作成等、見えにくい管理コスト(人員)の抑制を可能にします。
3. 本部機能の強化
本部主導での統一書式の整備や現場からの質問等に対して迅速な対応を可能にします。
4. サービスの質の担保
新規スタッフのOJTツールおよび毎月の研修ツールにて研修体制を構築できます。

法定書式集

運用マニュアル

研修内容

編集長 藤井 寿和

ライター 笠原 正寛

saint-works
介護のセントケアグループ
セントワークス株式会社

《 TEL.03-5542-8097 》

田中 訪問介護というのは、一人で現場に行く、調理などの家事をするがあったり、年中無休というイメージがあったりと思います。働きやすい職場環境作りをしていきたいです。変えていくために動いていく中で、壁にぶつかることが多いが、できることは何かということに丁寧に向き合っていきたいです。

藤井 お二人とも本日はありがとうございました。





「お笑い×介護レク」で介護現場を盛り上げます！ 芸人ならではの「ツツコミ・アセスメント」をお楽しみに。



レクリエーション介護士
よしもと芸人さんインタビュ

介護職員の方は前向き！
一緒に学んで教えてもらった

「でいて、なんか恥ずかったです。
でれすけ」「そういう説明じゃ通じないよ」
とか、経験あってこそそのアドバイス。



【取材協力】
松本康太(「レギュラー」) 西川晃啓(「レギュラー」)
上原チヨ(栃木) アルバトロスしん(神奈川)
うっぱ管原(「もぐもぐピーナッツ」千葉) ぼっしー(「もぐもぐピーナッツ」千葉)
でれすけ(「オスベンギン」茨城) 山中崇敬(「オスベンギン」茨城)



レクリエーション介護士としてすでに活躍中のお笑いコンビ・レギュラーの二人と、レクリエーション介護士2級を取得した「住みます芸人」6名に、介護レクの実感と今後の展望を伺ってみました。吉本興業には介護レクを受け付ける窓口もでき、お笑い介護レクのコラボにますます期待が高まっている。

西川 5年前に初任者研修の資格をとったものの、現場ですぐには笑いにつながりませんでした。レクリエーション介護士の資格をとってから、ようやく介護と自分たちのお笑いの向き合い方がわかりました。
うっぱ 介護レクを学んでみたら、イメージと全く違ってました。自分には高齢者に寄り添う姿勢がまったくなかった。要介護2の僕のおばあちゃんとの接し方も変わりました。
でれすけ レクで失敗してはいけないと思ってきましたが、失敗は盛り上がるチャンスだと教えてもらいました。
松本 中国人の介護職員の方と受講しましたが、彼のレク発表のときに、先生が「あなたには当たり前でも、中国語を教えるあげただけでも介護レクですよ」と言われて、「なるほど、自分の得意なことをしたらいいんだ」と納得しました。
ぼっしー 一緒に受講した介護職の方が、一人ひとりの個性を把握して、きめ細かく介護しているのに刺激されました。
山中 僕ら以外は全員介護現場の職員さん。介護に対する意識が僕とはまったく違っ

た。昔、何してはったんですか？」と遠慮せずに聞いてしまいます。突っ込んで聞いてみたら、お金持ちには見えなような人が世界旅行してたり！
松本 ぼくたちはスタッフさんと違って、その時だけのつながりなので、気を遣わずに平気で聞けます。その人の意外な経歴なんか聞き出せて、それがアセスメントになって役立てばいいですね。
上原チヨ氏(左)、TOWN介護Gunma外丸氏(右) アンカンミンカン富所氏(中)



西川 芸人って、「なんかオモロイ」を発見する力があると思うんです。だから、高齢者の普通の会話でも、「オモロイ」と思ったら突っ込む。失礼のないように、「ここが面白かったんですよ」と後で丁寧に説明してあげてほしい。そうすると、突っ込まれた方は「あら？私、今面白いこと言った？」とウケて嬉しくなります。

上原 笑いを取ろうと思ってないことを、膨らませて、みんなで笑いを作っていく！

僕たちが施設に行くことが家族が来てくれるきっかけに

松本 ぼくたちの理想は、年1回の施設のお祭りなどでネタもやって、介護レクもやって、それを家族のみなさんで見に来ていただくことです。それをきっかけにご家族が来てくれるようになればいいと思います。可能であれば、近所のお子さんにも。子供のパワーはすごいから、笑いも数倍になるんです。

上原 芸人って、仕事柄、目立つ変な恰好も許されるじゃないですか。それだけでも笑いを取れる！「芸人やってます」で打ち解けて即アイスブレイク。心がけているのは明るく元気に、好青年で！

アルバトロス 私はゴルフ芸人なので、おじいちゃんとはゴルフの会話で盛り上げられます。失敗が思わぬ



上原 介護職員の方たちは、日々のお世話だけで疲弊されているので、レクもしなくてはいけないとなると負担やストレスになると思います。介護レクが広がって、もっと僕たちが



群馬県 住みます芸人 アンカンミンカン 富所氏



笑いに変わったり、何がウケるのかわからないので、これから試しながら挿んでいきたいです。

うつほ 介護レク2級講座のときに出した企画書が「T i k T o k で変顔を撮って遊ぼう」。家に帰ってから家族に見せたら盛り上がるんじゃないかなと思いました。介護レクも、新しいツールをどんどん取り入れたらいいと思いますよ。

でれすけ 住みます芸人として、その地域ならではの地名や方言を使って盛り上げるレクをやってみたいですね。

スタッフさんが笑っているから利用者さんも笑ってくれます

うつほ 介護の仕事はネガティブイメージを持たれているかもしれませんが、毎日、利用者さんとのレクなどで新しい活動を作っていくの夢のあるいい仕事だと思っています。利用者の家族としても、これからも注目して応援していきます。

負担を軽減してあげたいです。全国のどこかの施設で、一日に一回は芸人のお笑いレクが行われるようになればいいなあ。

松本 介護スタッフさんには一緒にレクを楽しんでほしい。いつもレクに行くとは一番笑っているのはスタッフの方たち。入居者のみなさんは、そのスタッフさんたちの楽しんでいる姿がうれしかったり、面白かったり、もっと笑ってくれるんです。ぼくたちだけの力ではないんですよ。だから、僕たちがレクに行ったときには、是非一緒に楽しんでください。

介護レクサポーター

～介護レク代行サービス～

吉本興業に所属しているお笑い芸人が
“お笑い×介護レク”をお届けいたします！

プロのお笑い芸人が“司会進行能力”“コミュニケーション能力”を生かして、お笑い×介護レクを融合したレクプログラムの提供をいたします。「施設利用者のレク参加率」や「施設PR」にお悩みの介護施設はお気軽にお問合せください！



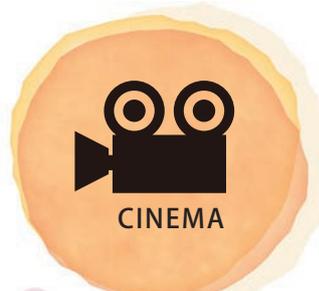
【お問合せ先】BCC株式会社 スマイル・プラスカンパニー
東京都千代田区外神田6-15-9 明治安田生命末広町ビル9F
スマイル・プラスカンパニー TEL:03-5816-3212 FAX:03-5816-3213



編集長 藤井 寿和



ライター 谷口 のりこ



田中耆征監督 新作映画 「ぬくもりの内側」



田中耆征 監督

「あなたの最後は誰に託しますか」

「生きていくことの素晴らしさや絆を伝え
切るヒューマンドラマ映画で、世界をより温
かいものに変えていくこと」に焦点をあてる
田中耆征監督の新作映画「ぬくもりの内側」
が、来年春に公開予定となっている。



監督自身が原作から脚本までを手がけた
本映画は「永遠の愛」をテーマに、余命宣告を
受けた人たちの「人生最後の生き方」それを
見守る人たちの心豊かな姿が描かれている。
映画は、日本各地の原風景とバンク・ウイ
ンを背景に撮影が行われ、本作品の魅力の二つに
もなっている。



主演 白石美帆

主演は白石美帆。また三田佳子、音無美
紀子、島田順司、渡辺裕之といった豪華名優
に加え、野村真美、スギちゃん、高樹滯、えのき
さりな、黒坂真美、小野寺丈、森本みき、大林
素子、森岡豊、高杉一穂、ちあきしん、田村幸
士、市川博樹、岡本茉莉、尾上五月、工藤貴文
と個性溢れるキャ
ストが揃う。

日本各地の原
風景と、バンク
ウインを背景に
展開する本作品

<https://www.isseyfilms.com/>



だが、物語の中心舞台
となるのは、白石美穂
が演じる看護師・神原
美穂がオープンささ
せた看取りホスピス
「ほほえみの里」。この
ホスピスは身寄りのな
い方々専用の施設で「人生の最期を一秒でも
長く笑顔になつてもらえたら…」という神原
の想いをもとにスタートする。
余命宣告された登場人物たちは、辿り着
いた「ほほえみの里」で医療チームや看取り
人などに見守られながら、各々が真正面か
ら向き合い、歩み寄っていく。
看取りや緩和ケアという現代社会におい
て大切なテーマを軸に、残された人生の過ご
し方や関わり方などといった問題に向かい
合う様子が描かれる本作品。まるで本当の
家族のような絆で繋がった患者と看取り人
たちの姿を通じ、観た人には「そつと」「ぬくも
り」が届けられることだろう。



プレミア「介護」感謝上映会 問い合わせ先
「介護Times Tokyo」「TOWN介護Tokyo」事務局
☎03-5939-6682

また別途、プレミア「介護」感謝上映会と
して、新型コロナウイルスの渦中で奮闘され
ている方々に向けての感謝上映会が予定さ
れている。すでに群馬県内にある福祉を学ぶ
高等学校での上映が決まっているが、希望が
あれば、他にも介護現場や地域コミュニティ
の場などへも積極的に上映を行う予定です。
プレミア「介護」感謝上映会については、
「介護Times Tokyo」「TOWN介
護Tokyo」にて開催希望の募集を受け
付けている。



TOWN
介護 TOKYO

介護 TOKYO
Times

12月号は12月15日
発行予定です

12月号 掲載情報募集中



介護施設等の

求人情報も掲載できます。

お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

株式会社 是眞 〒115-0041 東京都北区岩淵町32-11

☎03-5939-6682

※本誌の内容や発行日は予告なく変更になる場合があります

Members Introduction メンバー紹介



発行人

高橋 寿光



発行人及び編集長

藤井 寿和



カメラマン

近藤 浩紀



インタビュアー

半田 あい



記者・営業

笠原 正寛



ライター

中澤 真弥



ライター

塩野 涼子



ライター

羽吹 理美



アドバイザー

小林 弘和



事業責任者

戸田 昂志



総務責任者

岩崎 巧磨

発行所 株式会社 是眞
〒115-0041 東京都北区岩淵町 32-11
TEL.03-5939-6682

企画・編集 株式会社 是眞 合同会社 福祉クリエーションジャパン

発行予定 2月、4月、6月、8月、10月、12月

介護施設・広告掲載のお問い合わせは
株式会社 是眞

☎03-5939-6682 まで

■本誌記事・写真等の無断転載、使用を禁じます。

ライフインフーズの 食材販売

介護事業所向け



安心の食材を、美味しい献立で

新鮮な食材を、献立に合わせて人数分配送いたします。

市場直結発注システムで廉価でお届けが可能。

その日使う分だけお届けするので、食材の無駄がない。

栄養士がバランスを考えた美味しい献立を作成します。

群馬県内

100施設
以上の実績

旬の食材を使用した“季節を感じるメニュー”も提供し、
施設で暮らす皆様に、食事を通して四季のながれを楽しんで頂く事を心掛けています。

1日
3食 +60円でおやつをつける事も可能です

490円

(税別)

朝130円 / 昼180円 / 晩180円 お米・調味料別

〈例〉20名様利用の場合

1日3食 650円の場合

年間 4,745,000円

1日3食 490円の場合

年間 3,577,000円

年間 **コストダウン!**

-1,168,000円

[ご利用にあたり]

- 20名様以上でお届け致します。
- 食数確認は、前日の午前9時までをお願いいたします。
- 配達は、水・日曜日はお休みです。休日前に、2日配達いたします。



詳しくは… ライフインフーズ 検索

<http://www.lifeinfoods.co.jp>



対応エリア

練馬区、板橋区、足立区、北区、豊島区、川口市
クックフリーズも対応しておりますので、ご相談ください。

お問い合わせはお気軽に! ☎ 0120-099-955

群馬県伊勢崎市下植木町624-3 TEL.0270-23-3838 FAX.0270-21-5432



食をトータルコーディネート

ライフインフーズ株式会社

個人さま・法人さま

取材先募集。

目指す介護を

発信しませか？

掲載
無料



介護を応援する情報誌 [カイゴタイムズ・トーキョー]
本誌へ掲載する記事を大募集

取材・広告に関するお問い合わせはこちら

▶▶▶ 株式会社 是眞 〒115-0041 東京都北区岩淵町32-11 電話03-5939-6682

有料広告募集

伝えたい人に伝える広告

ターゲットに直接届く広告

印刷・掲載のコミコミ価格

広告サイズ多数対応(1/4~フルページ)

介護Times 広告主募集